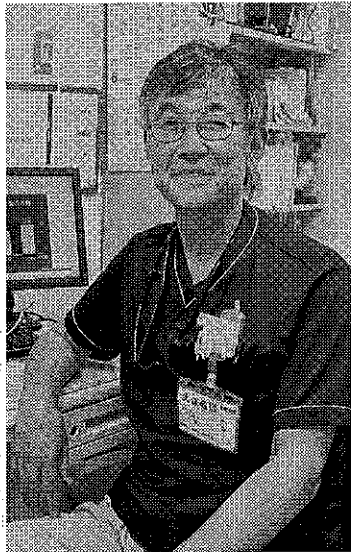


次世代への感染防げ

胃の不調が多いとされる日本人。慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの病気を引き起こし、さらに胃がんの主な原因として「ピロリ菌」(正式名「ヘリコバクターピロリ」)も注目されている。医療をめぐる診断技術の向上によってピロリ菌感染の診断が容易になり、2013年からピロリ菌陽性慢性胃炎の除菌も保険適用となった。医療法人須崎会高陵病院 大森義信副院長(外科部長)に「ピロリ菌の除菌の現状などについて聞いた。」

【池田知隆】

医療法人須崎会高陵病院 大森義信副院長に聞く

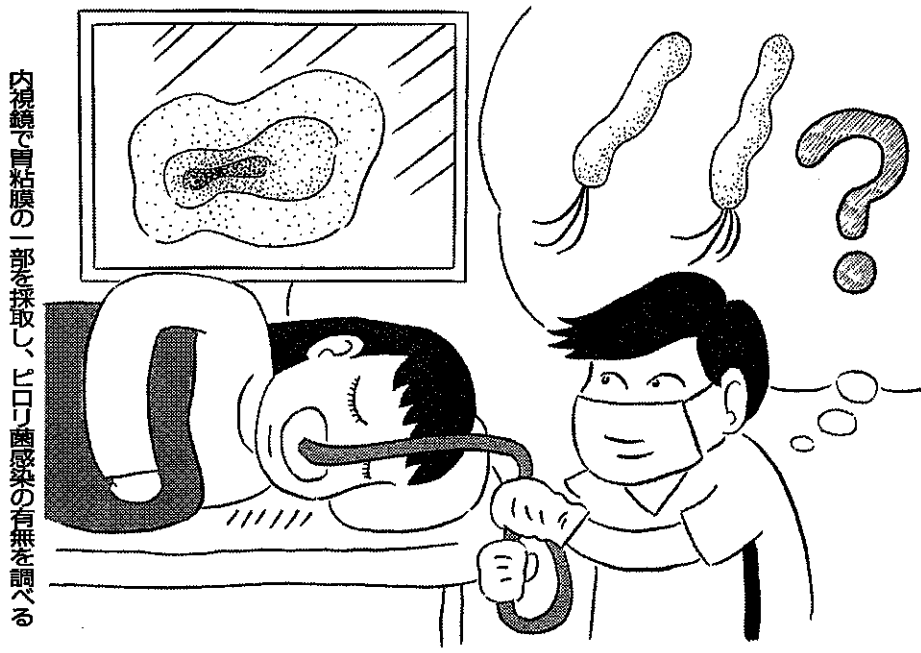


胃がんの主な原因ピロリ菌

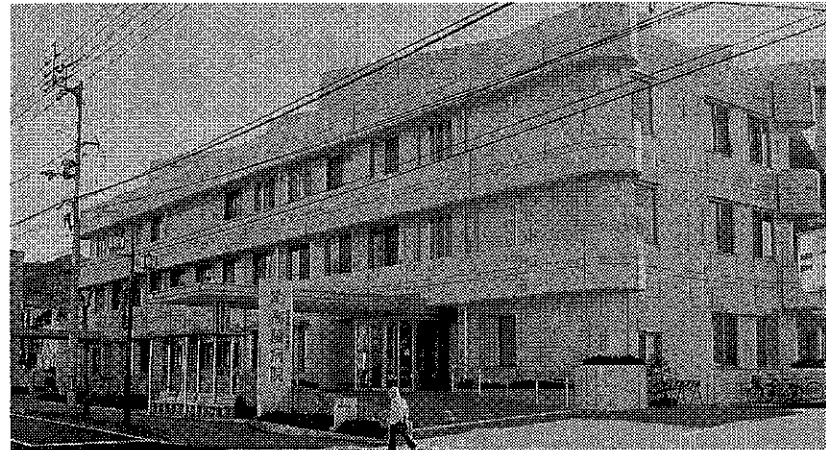
シリーズ 地域医療を考える

「ピロリ菌はどのような細菌ですか。」
ピロリ菌は、発がん作用が明らかにされた初めての細菌です。らせん状の形をし、胃液に含まれる塩酸によって強酸性である胃の内部でも生息できるという能力を有して64年の東京オリエンティックスを契機に上下水道などの社会的インフラの整備が急速に進み、それ以降の世代では感染者が急減しています。東京郊外の人間ドック受診者の最新調査では、40代の感染率は20%台、20代では10%、10代では2%程度となっています。地方においても中学生の感染率は3~5%と報告されています。将来的にはピロリ菌の感染者を日本からなくすることもできるかもしれません。

「どのように体内に入ってくるのですか。若年からの検査が大切だといわれますが。」
感染経路は不明ですが、胃内に定着することから経口感染すると考えられています。保菌している親との幼児期までの濃厚な接触、あるいは糞便に汚染された水・食品を介した経路が有力視されています。感染時期は、免疫防御機構が未発達で胃酸の濃度や分泌量が低い幼児期(5歳未満)



内視鏡で胃粘膜の一部を採取し、ピロリ菌感染の有無を調べる



医療法人須崎会高陵病院—須崎市横町

医療技術向上で容易に診断

「まてに起こるとみられるので、結婚適齢期の前に成人では免疫が働き、除菌することによって胃酸の濃度も高く分泌量の世代への感染を防ぐためのためピロリ菌が感染するのを防ぎたいです。」

「最近のペットブーム、動物の排せつ物などは大丈夫ですか。」
ピロリ菌は、サル、ネコ、ブタ、イヌの胃内に感染することが知られていますが、どの程度感染しているかの統一見解は得られていません。

「若年からの検査が大切なのは、感染経路が親から子への感染が主である(約7~8割が母から)」

「最後にピロリ菌をめぐるとシグナルや日常での予防方法を教えてください。」
シグナルとしては慢性胃炎の症状(胃痛、不快感、食欲不振など)が見られます。あと大切なのは両親などの既往歴が大事です。予防法としては成人であれば感染することはありません。幼児は免疫力が完全とはいえませんので、子供をもつ世代の人は、自分が保菌者であるかどうかを検査し、もし保菌者であれば除菌をお勧めします。

「した上で2次除菌まで保険が適用されます。現在、認可されている保険診療の対象の除菌方法は、3種類の錠剤を7日間服用します。現在、ポノプラザンという薬が使用されるようになって一次除菌率は92.6%となっています。さらに錠剤を変更して2次除菌すれば、ほぼ除菌率は98.0%と高率で除菌されます。2次除菌が失敗した場合は新しい薬を使って3次除菌をする場合がありますが、これは自由診療となります。」

「除菌の効果は。」
30代までに除菌すれば、ほぼ100%胃がんにならない、という研究報告もあります。40代で除菌すれば男性93%、女性98%で予防可能で、50代では男性76%、女性92%で、60代では男性50%、女性84%で、70代では男性45%、女性73%で、それぞれ予防可能といわれています。

「ただ人によっては除菌後に胃酸の分泌が盛んになり胃の不定愁訴があったり、逆流性食道炎が生じたりするデメリットもあります。年齢によって除菌をするかどうか検討すべきですが、若いうちに

保険適用 7日間錠剤服用

「より良い状態に保つための細胞死)を阻害したりして、がん化に関与している可能性が指摘されています。」

「検査方法を教えてください。」
ピロリ菌感染が疑われるような所見(胃潰瘍、十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎、過形成ポリープなど)が認められた場合、ピロリ菌感染を調べる検査を行います。

「まず最も簡便で精度の高い検査として尿素呼吸テストがあります。ピロリ菌が産出する二酸化炭素を検出するために試験薬を飲んで吐く息を集めて診断します。尿の中に含まれるピロリ菌の抗体の有無でも調べることができます。内視鏡で胃粘膜の一部を採取し、特殊な液(尿素とpH指示薬が混入された試験試薬)で反応を見たり、組織切片を染色し顕微鏡で見たりすることもできます。」

「除菌法は確立していますか。」
はい、確立しています。胃内視鏡検査

若いうちの除菌がお勧め

「それらの疾患の発病メカニズムをわかりやすく教えてください。」
胃の表面には粘膜上皮細胞の上に1~2mm程度の厚さの粘液層が覆っています。これが胃液に含まれる胃酸やたんぱく質分解酵素(ペプシンなど)から上皮細胞を守る役割を担っています。ピロリ菌が分泌するウレアーゼという酵素は上皮細胞に定着に必須であるとともに、走化性(周りのピロリ菌を呼び寄せ)や粘膜傷害にも大きく関与しています。また、ピロリ菌が分泌する特異的な外毒素(細胞空砲化毒素)やムチナーゼ、プロテアーゼなどの酵素が粘膜および上皮細胞の傷害に直接関与すると考えられています。そしてこの傷害による炎症が慢性化することにより、いろいろな疾患の発症リスクが高くなります。そして、前に述べた病原因子のタンパク質(CagA)が細胞増殖を促進したり、アポトーシス(個体を

「念のため幼少期にはあまりペットとの濃厚な接触は避けたほうがいいのかもありません。」

「ピロリ菌が関与する病気にはどのようなものがありますか。」